

【引用文献】

ACTIPS(2008).ACT のはじまりと ACTIPS の成り立ち.

<http://actips.jp/about/actandservice>,

ACT 全国ネットワーク(2010). ACT の標準モデル.

<http://assertivecommunitytreatment.jp/2010/07/act-standards-4-1-0/>

アメリカ精神医学会(2013/2014).高橋三郎, 大野裕(監訳),DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル,医学書院.

Anthony,W.A.(1993).Recovery from Mental Illness:The Guiding Vision of Mental Health Service System in the 1990s.Psychosocial Rehabilitation Journal,16(4),11-23.

青木典子(1997). 病院から地域への移行期における精神分裂病者の居場所づくり.高知女子大学紀要看護学部編,第 49 巻,55-66.

Deegan,P.(1988).Recovery:The Lived Experience of Rehabilitation,Psychosocial Rehabilitation Journal.11(4),11-19.

遠田大輔, 中西清晃, 杉角俊信, 北村立(2014). 精神科救急病棟入院患者の再入院に関連する要因の検討. 精神科救急, 17, 123-130.

古川奈都子(2002).心を病むってどういうこと?精神病の体験者より.ぶどう社.

濱田恭子, 堤由美子(2010).心の病をもつ人の地域における居場所と心の拠り所の獲得の実態.日本精神保健看護学会誌,19(2),22-32.

林園子(2003).「幻聴にジャックされる人、されない人」の研究パートII “くどうくどき”は食いしん坊だった.精神看護,6(6),82-86.

平田豊明(2016).精神科急性期包括入院料病棟の現状と将来展望.精神神経学雑誌,118(9),707-713.

池淵恵美(2004).「病識」再考.精神医学,46(8),806-819.

池淵恵美(2011).統合失調症の心理社会的治療最前線(第 4 回)当事者による SST(解説).Schizophrenia Frontier,12(2),126-129.

井上令一ら(2016). 監修:カプラン臨床精神医学テキスト第 3 版 DSM-5 診断基準の臨床への展開(2016).東京:メディカル・サイエンス・インターナショナル.

糸島弘和,井上幸子(2017).地域在住の精神障害者が感じる居場所感が社会参加への関心に及ぼす影響.精神保健看護学会誌,26(2),11-20.

伊澤ら(2015).精神保健医療福祉白書 2016 精神科医療と精神保健福祉の協働.中央法規

出版.

萱間真美(2013).ストレングスモデルを習いに出かける(第 2 回)リカバリー、エンパワメント、ストレングスモデルの関連.精神看護,16(6),68-71.

萱間真美(2016).リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術.医学書院.

北村香織, 伊東ひと美(2012). 再入院患者が退院に向けて意欲的になった要因.日本精神科看護学術集会誌, 5(3), 16-20.

公益社団法人 全国自治体病院協議会(2016). 精神 10 再入院率【精神】

https://www.jmha.or.jp/contentsdata/shihyo/20170425/s_10.pdf

厚生労働省(2011).精神科医療について

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001bu83-att/2r9852000001cdmb.pdf>

厚生労働省(2012). 精神科医療の機能分化と質の向上等に関する検討会.<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000002ea3j-att/2r9852000002ea7d.pdf>

厚生労働省(2014). 患者調査の概要 3 退院患者の平均在院日数等.

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/kanja/14/dl/03.pdf>

厚生労働省(2015).個別事項(その 2 : 精神医療).<http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12404000-Hokenkyoku-Iryouka/0000102476.pdf>

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課(2011). 精神障害者アウトリーチ推進事業の手引き.

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課(国研) 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所(2013). 精神保健福祉資料平成 25 年度 6 月 30 日調査の概要.http://www.ncnp.go.jp/nimh/keikaku/630/assets/pdf/h25_630.pdf

小山内隆生, 中嶋悠紀, 紺野喜代, 阿部真理子, 加藤拓彦, 平川祐一, 和田一丸(2005). 入院中の統合失調症者の退院に関する自身と入院前の生活経験との関連.青森県作業療法研究, 14(1), 37-42.

國方弘子, 茅原路代, 土岐弘美(2009).精神に病をもつ人の居場所感尺度の検討,厚生の指標.56(13),40-47.

三春未久, 佐藤豪(2016). 患者が望む退院へのアプローチ.日本精神科看護学術集会誌 59(1), 406-407.

水野典子,河崎寛,清水里香,佐々木栄喜,山本賀代(2002).当事者研究④「虚しさ」の研究—虚

- しさからの逃避行動.精神看護,5(3),49-53.
- 道上勝春,柏葉英美(2012).精神科看護師が認識する退院前訪問指導の効果と限界.日本看護学会論文集,42,24-27.
- 西尾雅明(2004).ACT 入門精神障害者のための包括型地域生活支援プログラム,.金剛出版.
- 西尾雅明(2014). 近未来の ACT (Assertive Community Treatment) .精神医学, 56(12), 997-1010.
- Russinova,Z.(1999).Provider'sHope-InspiringCompetenceasaFactorOptimizing PsychiatricRehabilitationOutcomes.Journal of Rehabilitation, 65(4),50-57.
- 坂井郁恵,水野恵理子,長坂暁恵,久保田正春(2012).地域で生活する統合失調症を患う人々が生きがいを獲得する過程.精神障害とリハビリテーション,16(1),49-56
- 酒井佳永,金吉晴,秋山剛,立森久照,栗田広(2000).病識評価 (The Schedule for Assessment of Insight) 日本語版(SAI-J)の信頼性と妥当性の検討.臨床精神医学,29(2),177-183.
- 佐野卓志,三好典彦(2005).こころの病を生きる-統合失調症患者と精神科医師の往復書簡.中央法規出版.
- SatokoTanaka,ToshiyukiUeda,YukaOkada,ChiakiFukuoka,TeruhisaYasuoka,SumikoSimizu(2017).Recovery process for mentally disabled individuals Acase report of outreachteam supporting his community life.Tottori Journal of Clinical Research,8(2),161-165.
- 佐藤真美,道上勝春(2013).統合失調症患者の病識の程度と再入院の関連性の検証-SAI-J を用いた評価-.本看護学会論文集精神看護,43,90-92.
- 田井雅子,野田智子,大川貴子,大竹眞裕美,濱尾早苗,中山洋子,...新村順子(2010).再入院した統合失調症患者の症状マネジメント習得と支援体制確立に向けたケア.日本精神保健看護学会誌,19(1),63-73.
- 田上美千佳(2014).先駆的実践と連動する精神科看護ケアの実態と課題—退院促進の視点から—.日本精神保健看護学会誌, 23(2), 121-126.
- 鶴田聡(2003).初発の統合失調症患者の長期予後.最新精神医学, 8(6), 581-588.
- 宇佐美しおり,中山洋子,野未聖香,藤井美香,大井美樹(2014).再入院予防を目的とした精神障害者への看護ケアの実態.日本精神保健看護学会誌,23(1),70-80.
- 内山直樹,池野敬,栗原竜也,馬屋原健,松本善郎,平川淳一,...木内祐二(2012).統合失調症退院患者の再入院にかかわる因子の検討.精神医学,54(12),1201-1207.

山之内芳雄(2016). 21 世紀の精神医療の変化:さまざまなデータから.精神保健研究,62,7-14.

山内俊雄ら(2015).精神・心理機能評価ハンドブック.中山書店.